

1. 病院の体制

医師会が築き上げてきた大学病院、都立・公社病院、国公立病院、民間病院との連携による協力体制のもと **15病院118床**でスタートしたコロナ病床を、東京都との連携のもと **4000床**まで増やしてきました。

その間、事あるごとにコロナ専門病院の必要性を説いてきました。

【今後の課題】

都立・公社病院を中心に更なる拡大を目指し、他の国公立病院、大学病院、民間病院が協力する総力戦で、急増する中等症、重症患者に対応できるか。

2. 診療所の体制

通常の医療、健診、予防接種、学校医・産業医活動を続けながら、会員の自主的努力により、PCR検査を拡充、インフルエンザとの同時流行にも備えてきました。

地区医師会PCRセンター 40ヶ所
診療検査医療機関 3400ヶ所

【今後の課題】

逼迫した保健所に代わり、自宅療養、自宅待機者のフォローをする仕組みが作れるか。

3. 高齢者介護を守る体制

東京都医師会が中心となって、連絡協議会を立ち上げ、感染状況や物資の補給状況の確認、感染症対策マニュアル作成や研修会開催等の啓発活動等による支援を展開してきました。

* 構成メンバー

老人保健施設、特別養護老人ホーム、
認知症グループホーム、有料老人ホーム、
ケアマネジャー協会、訪問看護協会 等

そうした支援の結果、老人保健施設を例にとると

- ・感染者を出した老人保健施設：全国 64ヶ所 東京 8ヶ所
- ・老人保健施設での死亡者：東京 0

まとめとお願い

東京都医師会は、多くの医療機関のご協力のもと、東京都と保健所とも連絡協議会を開催しながら、必要な医療体制を構築してきました。

しかしながら、このところの感染者の急増を抑えない限り、いくら総力をあげて頑張っても、医療体制はととても追いついていかず、医療崩壊は現実のものとなってきています。

都民の皆さん、老若男女、人は皆繋がっており、一部の分断勢力に惑わされることなく、一体となって感染予防に真剣に取り組んでほしい。

感染を抑えてこそ、経済も早く立ち直れます。
飲食業、観光業、輸送業も立ち直れます。

また、感染が抑えられるまでは、国がしっかりと
として補償をしてあげてほしい。